



第69回
全日本中学校長会研究協議会

鳥取(米子)大会

平成30年

10月24日(水)・25日(木)・26日(金)



第69回 全日本中学校長会研究協議会 鳥取(米子)大会



© Tottori pref.

写真：米子城跡から大山を望む

- 主催 全日本中学校長会 中国・四国中学校長会協議会
- 主管 鳥取県中学校長会
- 後援 文部科学省 鳥取県 鳥取県教育委員会 米子市
米子市教育委員会 鳥取県市町村教育委員会研究協議会
鳥取県市町村教育委員会教育長会 鳥取県小学校長会
鳥取県PTA協議会 (公財)日本教育公務員弘済会鳥取支部
(公財)とっとりコンベンションビューロー

「社会を生き抜く力を身に付け、 未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」

開催趣旨

今を生きる子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成長して活躍する頃の我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的な進化などの技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子どもたちが就くことになる職業の在り方についても、様相を全く異にするとの指摘もある。また、成熟社会を迎えた我が国が個人と社会の豊かさを追求していくためには、一人ひとりの多様性を原動力として、新たな価値を生み出していくことが必要である。将来を担う子どもたちには、変化を乗り越え、我が国の伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した日本人として他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り拓いていく力を身につけることが求められている。そのためには、個々人の潜在的な力を最大限に引き出すことにより、一人一人が互いを認め合い、尊重し合いながら自己実現を図り、幸福な人生を送れるようにするとともに、より良い社会を築いていくことができるよう、初等中等教育における教育課程についても新たな在り方を構築していくことが必要とされている。

一方、中学校教育の現状を見ると、いじめ防止対策推進法は制定されたものの、いじめは、なお深刻な課題となっている。また、規範意識や社会性、学習意欲の低下、暴力行為等の問題行動の増加など、様々な課題が指摘されている。これらの課題の解決を図るとともに、不登校の解消や自殺（自傷行為）防止等に取り組み、子どもたちの命や安全を守るためにも、学校は、「地域とともにある学校」に転換していくことが求められている。

全日本中学校長会は全日中教育ビジョンの趣旨を踏まえ、新たな教育課題に対して果敢に挑戦し、校長相互の資質向上と目的を明確にした研究を推進することにより、学校経営の更なる充実と学校からの教育改革をすすめていかなければならない。

そこで、平成30年度「第69回全日本中学校長会研究協議会鳥取（米子）大会」において、「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」を研究協議主題として研究を深め、我が国の中学校教育の向上に資するとともに、広く国民の信託に応えたい。

本大会においては、これまでの研究成果を踏まえ、全国中学校長の英知と創意を結集して、主題に迫る具体的な方策を究明し、我が国の中学校教育の一層の充実発展を期すものである。

鳥取県のシンボル



県の花「梨の花」



県の鳥「オシドリ」



県の木「ダイセンキャラボク」



大会日程

第1日 10月24日(水)

11:00	11:30	13:50	14:05	17:05	17:30	18:00	20:00
受付	全日中常任理事会	受付	全日中理事会	受付	歓迎の集い レセプション		
	12:30	13:00	14:30	15:00	17:00		
	受付	全体協議会 運営委員会	受付	分科会 運営委員会			

第2日 10月25日(木)

開会式・文部科学省説明・全体協議会

時程	行事	実施内容	時間
8:30	受付	資料配付	60分
9:30	開会式	1 開式のことば	50分
		2 国歌斉唱	
		3 あいさつ ・大会会長 ・大会実行委員長	
		4 祝辞 ・文部科学大臣 ・鳥取県知事 ・米子市長 ・鳥取県教育委員会教育長	
10:20		5 来賓紹介(祝電披露も兼ねて)	
		6 閉式のことば	
	会場整理		5分
10:25 11:10	文部科学省説明	文部科学省説明	45分
	準備		30分
11:40	全体協議会	1 議長団あいさつ	45分
		2 全体協議 第1研究協議題(全日中) 第2研究協議題(九州地区)	
		3 宣言・決議の提案(全日中総務部長)	
		4 議長団あいさつ	
12:25		5 諸連絡	
12:30	移動 昼食	各分科会への移動 昼食配付(各分科会会場)	65分
13:35	分科会	1 開会のことば、係紹介	190分
		2 司会者あいさつ	
		3 日程説明・運営について	
		4 研究発表	
		5 研究協議	
		6 まとめ	
		7 司会者あいさつ	
		8 諸連絡	
16:45		9 閉会のことば	

第3日 10月26日(金)

アトラクション・全体会・記念講演・閉会式

時程	行事	実施内容	時間
8:30	受付	分科会速報配布 宣言・決議(案)配付	50分
9:20 9:45	アトラクション	大山僧兵太鼓	25分
	会場整理		5分
9:50	全体会	1 協議 ・議長団あいさつ ・大会宣言決議 ・その他 ・議長団あいさつ	20分
10:10		2 諸連絡	
	準備		25分
10:35	記念講演	1 講師紹介	90分
		2 講演	
12:05		3 花束贈呈	
	準備		10分
12:15	閉会式	1 開式のことば	20分
		2 あいさつ ・大会会長 ・大会実行委員長 ・次期開催地代表(群馬県)	
		3 閉式のことば	
12:35		4 諸連絡	
	散会		



大会あいさつ

第69回全日本中学校長会研究協議会 鳥取(米子)大会 大会会長

全日本中学校長会
会長 山本 聖志

全日本中学校長会研究協議会鳥取(米子)大会の開催にあたり、準備・運営にあたられました中国・四国中学校長会協議会、鳥取県中学校長会の皆様に心より御礼申し上げますとともに、多大なるご支援・ご指導を賜りました文部科学省、鳥取県、鳥取県教育委員会をはじめ多くの関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

昨年は、戦後中学校教育70年を記念する大会を東京で開催いたしました。全日中大会のカウントとしては第68回で、今回が第69回大会ということになります。人間で言えば古希を迎えることになるその歴史は、昭和25年5月18日に上野国立博物館で行われた創立総会に遡ることが出来ます。当時の状況については、わずかに残された記録や先達の記憶に頼るしかありませんが、昭和24年の文部省調査によれば、二部・三部授業を実施している教室が2,268にのぼり、講堂の間仕切りが3,342教室、物置などの代用が3,090教室という状況であったことがうかがわれます。生徒数も一つの教室に50人以上は当たり前で、昭和27年に義務教育費国庫負担法が制定され、ようやく教職員の給与と共に施設や設備、教材等が補助されることとなりましたが、教育を行うための条件としては、何もかもが厳しい時代でした。これらの経緯については、昨年度の大会を機に刊行された「中学校教育七十年(全日本中学校長会編)」に記されています。

中学校が小学校から連なる義務教育の重要な場として、我が国において大きな役割を果たしてきたことは論を待ちません。今日まで幾多の困難を乗り越え、心血を注いでこられた諸先輩の皆様や関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、後に続く私たちには、その理念及び実践内容を引き継ぎ、今後の発展に向けて一層の努力をしていく使命があると考えます。

さて、現在、私たち中学校長会が抱える喫緊の課題としては、5月の総会でも申し上げましたように、第一に新学習指導要領の円滑な実施、第二に学校における働き方改革への対応、第三に「全日中教育ビジョン」の推進が挙げられます。時代状況がスピードを上げて変化を遂げる中、近い将来、今ある職業の大半がAIに取って代わるといった未来予測も盛んに言われ、危機感が広がっています。しかし、そうした状況下にあるからこそ、学校教育が果たすべき役割が益々重要になってきているものと確信します。人は人によって育ちます。私たち教職員は、子供たちの未来を予見し、生涯にわたって生き抜く力を育むため、改めて教育のもつ意義や価値について考える時が来ているものと考えます。全国の会員が一堂に会して研究協議を行う意義はここにあると言えます。分科会や全体会の協議、行政による説明や記念講演等を通じて有益な情報を持ち帰り、是非とも各学校の経営や授業改善に役立てていただければと存じます。

最後に、大切な視点として、防災教育の推進があります。東日本大震災や熊本における地震被害をはじめ、今年6月に大阪府で発生した地震、7月に西日本を襲った豪雨災害など、近年、自然災害発生の頻度が高まっています。これら甚大な被害を被った災害の教訓を決して忘れず後世に残すことについて、私たちには記憶の風化の防止に取り組む義務があります。この点についても大会を通じ、会員相互の意見交換に努めていただければ幸いです。参加者の熱意に支えられ、鳥取(米子)大会が大成功いたしますことをお祈りしています。



大会あいさつ

第69回全日本中学校長会研究協議会 鳥取(米子)大会 実行委員長

鳥取県中学校長会

会長 田村 穰

全国各地からお集まりいただきました会員の皆さま、ようこそ鳥取県へお越しくださいました。心から歓迎いたします。第69回全日本中学校長会研究協議会鳥取(米子)大会が、この鳥取県、米子の地で全国からご参集いただきました会員の皆さまとともに開催できますことは、この上ない光栄であり、大きな喜びであります。

さて、6月に発生した大阪府北部を震源とする地震、7月の西日本豪雨、9月の台風21号そして北海道胆振東部地震で被災された皆さまには心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。本県も2年前「鳥取県中部地震」を経験しました。東日本大震災、熊本地震と続く大地震、予想をはるかにこえる豪雨や猛暑などの中で、防災への不断の備えと防災教育の充実は、中学校教育にとって、避けて通れないものとなっています。

本大会は「拓こう！ 未来の教育を 童謡のふるさと 鳥取から」を大会のスローガンに掲げ、研究主題を「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」の最終年度としての開催となります。

今日、わが国はAIやIoTの急速な進展の一方で、人口減による人手不足と過重労働などの深刻な諸課題を抱えており、将来を予想しにくい不透明な社会に直面しています。中学校現場においてもいじめ問題や学校不適応生徒への対応、貧困家庭や外国人生徒の増加、特別な支援を要する生徒への対応など課題や問題は多岐にわたり変化し続けています。このような時だからこそ、私たち校長は学校教育の責任者として、しっかりとした教育信念と使命感をもち、校区の資源や強みを遺憾なく発揮し、来るべきSociety5.0を見据え、自らの教育ビジョンの実現へ向け、リーダーシップを発揮していかなければなりません。

本大会では全体協議会と8つの分科会において、全国からの実践に基づく現場感覚の発表があります。全日中教育ビジョンの趣旨を踏まえ、研究主題に迫る具体的な方策を究明しながら、熱意あふれる活発な協議が行われ、その成果が全国の各中学校へ波及し、学校経営及び教育活動の一助として活かされることを期待しています。

さて、鳥取県は日本最小の人口56万人、中学校長会も58人のとても小さな組織です。しかし、本年開山1,300年を迎える秀峰大山や鳥取砂丘などの豊かな自然と松葉ガニや鳥取和牛、二十世紀梨などに代表される海や山の新鮮な食材に囲まれ、県民はゆったりとしたスローライフを満喫しています。素朴でおおらかな「鳥取」の魅力を感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、文部科学省、鳥取県、鳥取県教育委員会、米子市、米子市教育委員会、中国・四国中学校長会協議会をはじめ、多くの関係機関、関係各位のご支援・ご協力を賜りまして、本大会を迎えることができましたことを衷心より感謝申し上げます、ごあいさつといたします。